

TAV-4

水道法基準適合品

JWWA

東京都水道局・名古屋市上下水道局・都市再生機構対応品

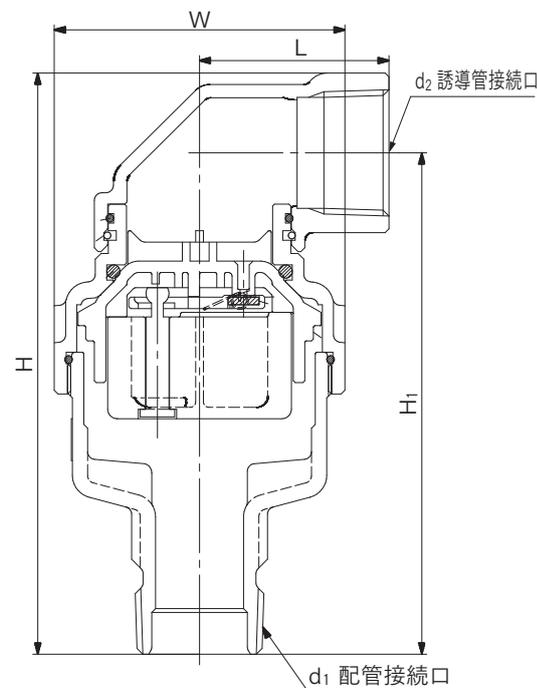


■ 特 長

1. 急速吸気機能をもち、負圧発生時の空気吸入量が大きい。(名古屋市上下水道局、都市再生機構では、給水立て管50Aに20A1個で、東京都水道局では給水立て管75Aに25A1個で対応できます。)
2. 配管内に溜まった空気をスムーズに排気します。
3. 耐寒性能基準をクリア。寒冷地でも安心してお使いいただけます。
4. 給水立て管の充水時に管内の空気を排出し、カランなどからの空気の噴出を軽減します。
5. 配管接続口はコア対応で、製品そのものが360°自由回転します。誘導管接続口を必要な方向に向けてご使用ください。

■ 仕 様

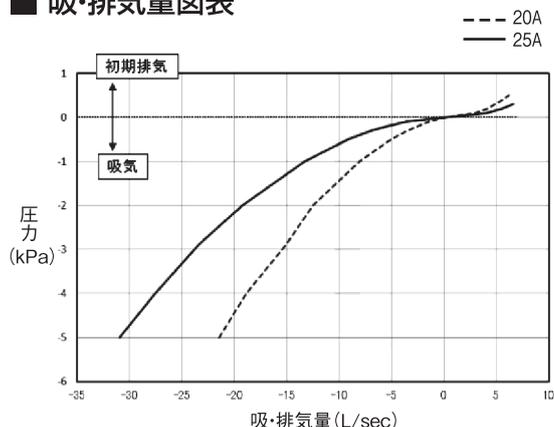
適用流体	水道水(上水)	
適用圧力	0.05~1.0MPa	
吸気量	20A:15.1L/sec 25A:23.4L/sec (圧力-2.9kPa時)	
流体温度	0~40°C(凍結不可)	
材質	本体	青銅(NPb処理)
	フロート	合成樹脂
	排気弁パッキン	合成ゴム



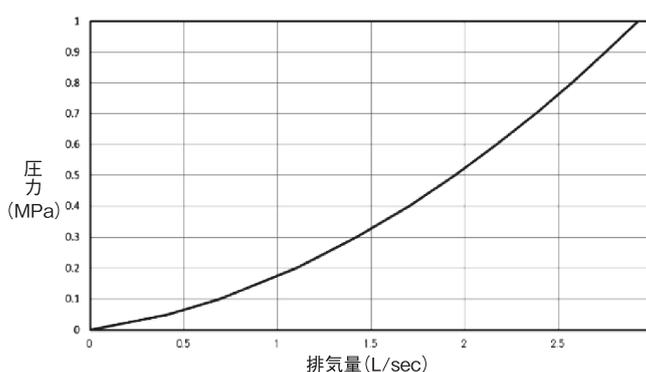
■ 寸法及び質量

呼び径	d1	d2	H	H1	W	L	質量(kg)
20A	R 3/4	Rc 1	151	130	φ76	49.5	1.2
25A	R 1	Rc 1	153	132	φ76	49.5	1.2

■ 吸・排気量図表



■ 排気量図表



■ 吸排気弁の選定

給水立て管の配管径に応じて、負圧破壊に必要とされる吸気量の基準があります。吸排気弁はそれらの基準に応じて設置する必要があります。

● 立て管口径毎の必要吸気量とTAV-4の選定

立て管口径	名古屋市および都市機構の基準値 (スウェーデン吸気性能基準)		東京都水道局の基準		TAV-4の選定
	L/sec	L/min	L/sec	L/min	
20A	1.5	90	1.5	90	TAV-4 20A 1個 {TAV-4 20Aの吸気性能は、15.1L/sec(906L/min)}
25A	2.5	150	2.5	150	
32A	4.0	240	3.5	210	
40A	7.0	420	5.5	330	
50A	14.0	840	9.0	540	
75A	—	—	15.5	930	TAV-4 25A 1個 {TAV-4 25Aの吸気性能は、23.4L/sec(1404L/min)}
	33.4	2004	—	—	
100A	—	—	25.0	1500	複数個使用
150A	—	—	56.7	3400	

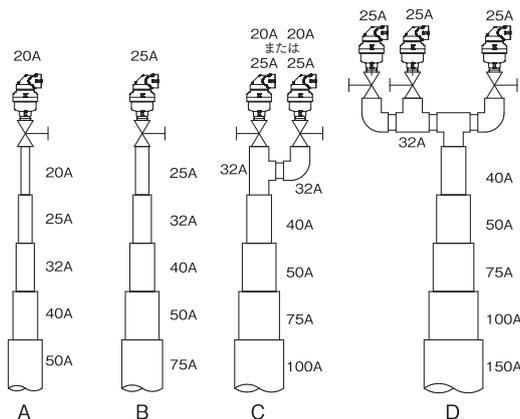
※吸気量は-2.9kPa時の値です。

※配管形態や水道事業者によって必要吸気量が異なる場合がありますので、詳細は各地の水道事業者へお問い合わせください。

※複数個を使用する場合には、吸気性能を満足する組み合わせでご使用ください。

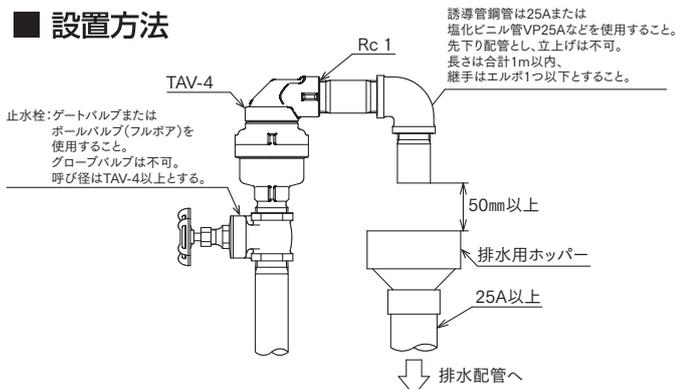
■ 配管図例

選定結果に基づいて、下図の配管例のように必要吸気量以上の吸排気弁を設置してください。



- Aは立て管径が20Aから50Aなので、TAV-4は20Aが1個です。
- Bは立て管径に75Aが使われているため、東京都水道局基準の場合TAV-4は25Aが1台となります。
(名古屋市および都市機構基準の場合、TAV-4は25Aが2台となります)
- C、D、は複数個設置の例です。
配管分岐部分が空気の流れを妨げないように注意して設計・施工をしてください。

■ 設置方法



※水道事業者によっては設置基準が異なる場合があります。詳細は各地の水道事業者へお問い合わせください。

■ 取付けに際しての注意事項

- ① 衝撃を与えないように注意して取り扱ってください。
- ② 直射日光や雨を避けて保管してください。
- ③ 落雪などの危険があるところへの設置は避けてください。
※製品に落雪があたると、製品が損傷するおそれがあります。
- ④ 製品の取付けに際しては、保守・点検・修理のため十分なスペースを確保してください。
- ⑤ 給水器具や水受け容器のあふれ面より、300mm以上高いところへ設置してください。
- ⑥ 製品を正規の目的以外で使用しないでください。
- ⑦ 製品を水道水以外の流体で使用しないでください。また、使用圧力範囲、最高使用温度などの範囲内で使用してください。
- ⑧ 製品及び配管にアースをとらないでください。腐食の原因になります。
- ⑨ 取り付け前に配管内部にゴミや異物、また切削油などの油や溶剤、薬品類が残らないように十分に洗浄を行ってください。
※配管内の洗浄が不十分な場合、製品に不具合を生じ漏水の原因につながります。
- ⑩ 製品を配管に接続する場合は、シール剤やシールテープが配管に入らないように、シール剤の量や塗布の位置、シールテープの位置に注意してください。
※製品にシール剤やシールテープが混入した場合、正常な作動が損なわれるおそれがあります。
- ⑪ 製品は、分解しないでください。
※分解しますと製品の機能が損なわれるおそれがあります。
- ⑫ 製品の吸排気口から万一の水漏れに備え、誘導管を吸排気口それぞれに取り付け、ホッパー(排水溝)まで導いてください。(誘導管の先端は、ホッパー(排水溝)のあふれ縁より50mm以上空間をとってください。)
- ⑬ 誘導管接続口には必ず排水経路まで誘導管(25A以上)を取り付けてください。
- ⑭ 誘導管は製品から先下がり配管としてください。立ち上げ配管は出来ません。
- ⑮ 誘導管及びホッパー以下の配管は必ず25A以上で配管してください。
※誘導管が細すぎますと、満足する吸気量が得られません。
- ⑯ 配管接続時は無理な力をかけないように注意してください。接続部からの漏水や製品の故障の原因になることがあります。
- ⑰ 配管との接続は確実に行ってください。
※接続が不十分ですと、振動などによって流体が漏れるおそれがあります。
- ⑱ 内部部品は空気の溜りやすい箇所に垂直(鉛直より5°以内)に取り付けてください。
※傾きが大きいと、動作不良や漏水の原因になります。
- ⑲ 流体の凍結防止を行ってください。
(凍結のおそれのあるところで使用する際には保温・加熱・水抜きなどの適切な処置を施してください。)
※製品の機能が損なわれるおそれがあります。
- ⑳ 油や溶剤、薬品類を付着させないように注意してください。
- ㉑ 内部部品に悪影響を与える成分が流体中及び環境に含有されている場合、ゴム部品などの劣化が促進され外部漏れの発生や機能障害が発生します。
- ㉒ 保守・点検のため、製品以上の呼び径の止水栓(ゲートバルブ・ボールバルブ(フルボア)・コックなど)を必ず取り付けてください。グローブバルブは、使用しないでください。
- ㉓ 誘導管をつぶしたり、垂いだりしないでください。
※製品の機能が損なわれるおそれがあります。
- ㉔ 製品に横から無理な力を加えたり、重い物を立てかけたり、ぶら下げたりしないでください。
※製品の機能が損なわれるおそれがあります。
- ㉕ 製品の入口側には、止水栓を取り付けてください。万一ゴミ噛みなどによる漏れが発生した場合、直ちに止水栓を閉じてください。
- ㉖ 吸気口の誘導管は、粉塵やその他の異物を吸い込むおそれがある場合は避けてください。
※製品の機能が損なわれるおそれがあります。
- ㉗ 配管への接続の際、必ず取り付けねじのすぐ上にある4ヶ所の爪に工具(フックスパナ・チェーンレンチ・パイプレンチなど)をかけて締め付けてください。(右図参照)
他の箇所には工具をかけないでください。
※製品が破損するおそれがあります。

